眼　科

診療科の概要

新生児から入学期までの乳幼児を主な対象としています。視機能の発達にとって最も大切な小児期の眼疾患に対する専門的な治療を行います。当科では斜視や先天白内障などの先天異常に対して早期に治療を開始し弱視の予防や治療を行ってきました。また、新生児科と協力した未熟児網膜症の治療も主要な診療です。

主な対象疾患

弱視、斜視（内斜視、外斜視、下斜筋過動症、麻痺性斜視など）、未熟児網膜症、先天白内障、眼瞼疾患（内反症、眼瞼下垂）、涙道疾患など。

主な検査と治療

◎検　査

視力、PL 視力、屈折検査、眼位、眼球運動、両眼視機能、眼圧、色覚、視野、コンタクトレンズ、電気生理(ERG、VEP、EOG)、OCT、ロービジョン、放射線画像診断(CT、MRI、RI)

◎治　療

・内斜視は2～3歳頃、外斜視は5歳以後に手術を行い、その他の斜視では諸検査による評価が可能になった時点で手術を行います。

・眼瞼内反症は、角膜障害の強いものに対して手術を行います。先天性の重症眼瞼下垂では、弱視の予防のため早期から吊り上げ手術を行います。

・先天白内障は、2歳まではハードコンタクトレンズによる弱視の治療を行います。2歳以上になれば眼内レンズの挿入術が第一選択になります。

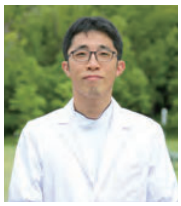
・未熟児網膜症は当院NICUに入院した未熟児を対象として、レーザー光凝固、硝子体注射、網膜剥離手術などを行っています。

専門外来

◎コンタクトレンズ外来
◎視能訓練外来

診療実績（2023年）

初診患者数は約940名、再診患者数は約6,500名です。手術件数は約220件で、過半数が斜視に関するもので、先天白内障、未熟児網膜症、眼瞼疾患などがそれぞれ10～50件となっています。



副部長
遠藤 高生

視能訓練士
石坂 真美